



多面的機能支払交付金 活動事例紹介

～ 池干しに併せた外来種の駆除と機能診断・軽微な補修 ～



1. 組織の概要

奥松瀬川地区保全隊は、東温市で活動する組織です。この活動組織は平成19年度から交付金活動を開始しており、現在活動を行う対象農用地は、水田 24.6ha と普通畑 3.0ha で多くは、水田です。組織の活動としては、農地維持、資源向上（共同・長寿命化）のすべてに取り組んでいます。

2. 複数の活動を組み合わせて

この日は、ため池の草刈と池干しに併せて、外来種の駆除活動を行いました。「池干し」とは、ため池の水を抜き、日干しにする維持管理方法です。底泥を空気にさらして乾燥・酸化させることで底泥からの栄養塩類溶出を抑制することができます。また、ため池の水が入れ替わり、水質の改善にもつながります。ため池の魚類の捕獲を行い、在来種の保護、外来種の駆除も行いました。このような活動を行うことで、地域の生態系を保全し、農村集落の環境を守っています。この活動は、約15年続けており、組織の中でもとても重要な活動に位置付けています。

池干しにはもう一つの役割があります。普段水位が高くて確認することが出来ない斜樋、底樋入水口及び張ブロックの点検・機能診断ができます。今回の点検・機能診断の結果、底樋の開栓器具の補修や、劣化部の清掃、ブロック基礎部へのモルタル充填、目地のコーキングを行いました。施設の長寿命化を行うことで、将来にわたって長く使い続けることが可能となります。参加した非農業者は「今日は選挙の関係で人手が足りない状況でとても大変でした。農業はしていないが、自分たちが育ったこの環境を維持していくために、これからも活動に参加していきたい」と話してくれました。

なお、この活動は、以下の項目に位置付けて活動をしています。

- ⑬ため池の草刈⑮ため池附帯施設の保守管理⑰ため池の機能診断
- ⑳ため池の軽微な補修等㉑外来種の駆除
- ㉒啓発・普及活動㉓地域住民による直営施工（一部抜粋）

3. 農村型地域運営組織(農村 RMO)

同活動組織のある集落では、農用地の維持管理のほか、衰退する集落機能を相互で補完する農村 RMO 形成に向け、「奥松瀬川地区農村活性化協議会」を設立し、県下の他地域に先駆け農村型地域運営組織(農村 RMO)形成推進事業を活用して、広域で地域を支え合う組織づくりに取り組んでいます。詳細は、土地改良だより Vol531 号の〇ページに記載しています。

